

— 第8号 —

編集：立命館大学化学科同窓会事務局  
編集責任者：香山彰朗  
〒603 京都市北区等持院北町56-1  
立命館大学化学科内  
TEL. 075-465-1111  
(内3645)

立命館大学



# 化学科同窓会ニュース



岩崎弘通先生

初秋とはいえ、残暑の続く今日このごろですが、化学科同窓会の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて私こと本年三月末日をもちまして立命館大学を退職いたしました。三



岡本勇三先生

初秋を迎えましたが、同窓の皆様には如何お過ごしでございましょうか、お伺い申し上げます。

既にご存知の方も多いことと存じますが、小生、昭和二十八年九月から三十六年六ヶ月間勤務した本学を、この三月に退職致しました。

## 定

## 年

## 退

## 職

## に

## あ

## た

## つ

## て

十七年十ヶ月の間、教職員の皆様方をはじめ、いろんな人達のお力添えにより大過なく勤務することができ大変感謝をしています。また退職にあたり、化学科同窓会より記念品を頂戴し、まことにありがたうございました。厚く御礼申し上げます。

二十七年に化学科教室助手として故室伏先生の油脂研究室にはじめて勤務し、教えられる立場から教える立場となり、とまどいと同時に緊張の毎日であったことを思い出します。室伏先生が退職されてからは、横山先生のお世話になり、化学工学とくに粉体について勉強させていただきました。無機材料化学研究室を担当してからは、鈴木啓三先生、松田二郎先生にご指導をい

ただき、退職時までセラミックスを主体とした研究をして参りました。

その間、六号館への移転、大学紛争などいろいろのことがありましたが、私が一番心に残ることは、五十八年の化学科同窓会の発足です。以前より化学科同窓会を作ろうという話しはよく耳にしましたが、なかなか実現できずもどかしく思っていました。所が五十六年頃より、学内の卒業生の先生方を中心に具体的に進み、五十七年に化学科卒業生懇談会を行い、より具体化を おび化学科の諸先生方および卒業生の皆様方の一方ならぬご尽力によって翌五十八年六月に正式に発足いたしました。その後、吉田巖前会長、田村季照現会長をはじめ、学内外の役員、卒業

その間、諸兄弟から戴きましたご厚情ご鞭撻に関し、また退職に当たって、当同窓会より高価な「木製の書斎机」を記念に戴きましたご芳情に対し、心からお礼申し上げます。

顧みますれば、小生は、立命館第一中学校以来、立命館学園で学んだのち母校に勤務し、その途中で他所の飯を食べたのは僅かでしたから、人生六十年のほぼ八十%を本学園で過ごしたこととなります。その間の最も印象深い時期は、専門学校に学んでいた頃のことです。退職の挨拶にこのようなことを書いて申し訳ありませんが、昭和十二年に本学専門学校の理学科・化学科に入学して三ヶ年、諸先生、諸先輩から随分ご指導ご鞭撻を戴きました。とりわけ、課外活動の「化学研究会」

での諸行事に積極的に参加して、非常に楽しい学生生活を過ごし生涯の友を多く得たことは、四十年経った今思い出しても大変愉快になります。

また、杉田先生のご尽力で本学に勤務するようになってからの思い出としては、もう二十年以上も前のことになりましたが、理事会と組合との業務協議会で訴えた助手問題が、最近ようやく解決の途が開かれたことです。また研究・教育面では大した事は一つできませんでしたが、有機化合物の合成化学的研究、特に有機金属化合物や有機金属錯体の反応に関する研究を通じて、学生達に少しは自信を持たすことができたのではないかと思います。退職後は、非常勤として週一回衣笠への出校の他に、「有機合成化学研究

生の皆様方のご努力によって大きくそして強固な同窓会としての絆ができたことを化学科同窓会設立にかかわった一人として喜びと同時に皆様方に御礼申し上げます。

最後に立命館学園と化学科のますますの発展と化学科同窓会の皆様方のより一層のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

略歴 昭和二十七年立命館大学理工学部化学科卒業。昭和二十七年立命館大学助手。昭和四十八年立命館大学助教。理工学部国庫負担委員、二部協議委員、化学科主任、就職斡旋委員、学生委員他、各種役職を歴任された。

室同窓会」の創立三十一周年記念総会をこの十月中旬に開催するための世話など、二、三のボランティア活動でかなり忙しくしております。

終わりに臨み、化学科および化学科同窓会のますますのご発展と、皆様方の一層のご健勝ご活躍を心からお祈り申し上げます。

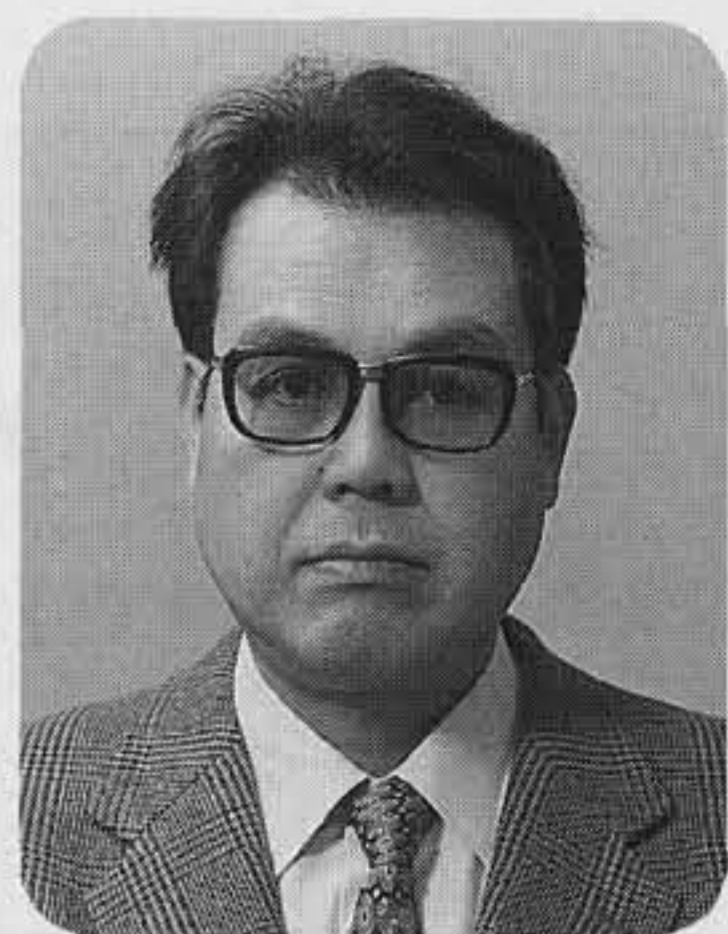
略歴 昭和二十七年立命館大学二部理工学部化学科卒業。昭和二十五年京都大学吉田分校化学教室雇員。昭和二十八年立命館大学助手。

昭和五十七年立命館大学助教授。理工学部学生主事、二部協議委員、危険物取扱主任、化学科学生委員、日本化学会幹事他、各種役職を歴任された。



# 岩崎弘通・岡本勇三先生 を送る言葉

化学科主任 立木 隆



拝啓

きびしい残暑が続きますが、同窓会  
会員の皆様には、ますます御健勝、御  
活躍のこととお慶び申し上げます。  
すでにご承知のこととは思いますが、  
岩崎弘通先生、岡本勇三先生がご定年  
を迎えられ、一九九〇年三月三十一日  
付けをもって立命館大学をご退職にな  
りましたことを、お伝えいたします。  
別掲のご略歴欄にありますように、両  
先生はともに本学化学学科のご出身であ  
り、ご卒業後三十年余りもの長い間、



本年五月、化学教室の歓・送別会にて

化学教室や同窓会のために大変なご尽  
力をたまわりました。両先生に心から  
のお礼を申し上げ、今後のご健康とご  
発展をお祈りいたしたく存じます。

今から、二年前に本学へ参りました  
私にも、両先生は日常のことを通して、  
化学教室での最初のまた大変鮮やかな  
印象を残して下さいました。赴任当時

私は、化学教室にはやく慣れなければ  
ならないというわけで、できるだけ朝  
早く大学に来るように努めていました。  
しかしほとんどの場合、両先生はすで  
に在室しておられ、研究、教育、また  
教室や学部の業務にとりくんでいられ  
ました。教室内部の事情が全く分から  
ず、うろろろしている私をよく教えて  
下さいましたので大変ありがたく思い  
ましたが、すごい人がいるものだなと  
いうのも、正直なところの感想であり  
ました。

理工学部の「びわこキャンパス」へ  
の移転と拡充・発展を控え、いま化学  
教室は、非常に大事な激動の時期に入  
ろうとしています。このような時に、  
規則だからしかたがないのかもしれない  
ですが、経験豊富で熱心な両先生が退  
かれますことは、化学教室にとりまし  
てまことに残念なことと言わざるをえ  
ません。両先生が、「もう現役ではな  
いのだから」などとおっしゃらずに、  
今までと同じように化学教室の発展の  
ためにご指導とご鞭撻を下さるようお  
願いしたいと、私は思っています。化  
学教室構成員や同窓会会員の方々も、  
同じお考えのことと存じます。

長らくのご勤務を感謝するつもりで  
書き出したのですが、教室員の一人と  
しての私の気持ちのままに、両先生に  
今まで以上のご苦勞をお願いするよう  
な内容にすり変わってしまいそうです。  
私の意あるところをご理解いただき、  
岩崎先生、岡本先生にお送りする言葉  
にさせていただきますたく思います。

一九九〇年立秋

敬具

## 岩崎先生を送る言葉

林 年昭

(昭和58年大学院卒)



私の脳裏に、今でも明確に刻み付け  
られているのは、いつも黙々と実験を  
続けておられた先生のお姿です。その  
後ろ姿に、研究者たる厳しい姿勢を教  
えられました。卒研生として、そして  
院生として、三年間も先生の御指導を  
受けられたのは、私の人生の中で、非  
常に幸運であったと思っております。

就職後も折々のお便りで、常に若輩の  
身をお気遣いいただき、日々身近に先  
生の御温情を感じている次第です。  
私が院生であった当時、先生の御研  
究は、一つの「転換期」を迎えておら  
れたように思います。それは、「基礎  
研究から応用研究への飛躍的転換期」  
であり、今思えば、三十八年余にわた  
る先生の盤石たる基礎研究と豊富な御  
経験に裏付けられた当然の帰結のよう  
に感じられています。

「モノを作ってみようと考えている」  
とおっしゃっていたお答えが、「植物

材料からのセラミックスの合成」でし  
た。それまで研究室では、基礎的な物  
性研究が中心であっただけに、最初の  
とまどいは今でも忘れません。わが国  
に豊富な海藻類や、イネ科植物からの  
セラミックス合成という、独創的研究  
にいち早く着手したわが無機材料化  
学研究室は、まさに時代の最先端を走  
っていたわけです。「資源の限定され  
た日本にとって必ず役に立つ。」と確  
信をもって語っておられた御言葉を、  
今でもよく覚えております。

最近の御成果の一つ、「米ヌカから  
の水酸アバタイトの合成」は、医療用  
バイオセラミックスの画期的な合成技  
術として注目を集め、専門誌をはじめ  
新聞、テレビなどのマスコミを通じて  
国内外に広く紹介され、高く評価され  
ております。

そして今、円熟半ばにあつて、御退  
官の時期を迎えることは、母校にとつ  
て、私にとつても残念の極みではあり  
ますが、最近のお便りでは、大阪の某  
企業で御研究を続けられ、そのための  
お住まいも確保されたとのこと。平日  
を大阪で過ごされ、熱心に研究されて  
いるお姿が、目に浮かぶようです。  
普段の新鮮な感性と、鋭い着想で、  
今後も大いに御活躍されることと思



ます。多くの先輩、後輩諸氏とともにこれを誇りに思い、かつお喜びするとともに、先生の御健康を祈念申し上げ、

ささやかではありますが送る言葉とさせていただきます。  
(シャープ(株)超LSI開発研究所)

# 岡本勇二先生を送る言葉

森 弘至  
(平成元年卒)



室よりも、活気があった。』と言えるだけの研究は出来なかつたと感謝しております。

現在の私の仕事は、有機合成化学とは、直接関係はありませんが、ここで養った考え方や、実験のテクニックなどは、私の大切な財産として、今も活用しています。

また、先生はパソコンに、かなり熱心に取り組んでおられたのを、記憶しております。

四十代を越える年代の方は、『キーボードアレギー』などといわれ、敬遠しがちで企業におけるコンピュータの導入の際、一番のネックになるといふ話をよく耳にいたします。

先生は、積極的に新しいソフトを購入し、取り扱いの難しいソフトでも、使いこなしておられるのを見ると、かなりの努力をなされているのだと、途中であきらめてしまう私にとって、頭の下がる思いがします。

今後の先生のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。  
(東拓工業(株)開発研究所)

この期間の練習実験で基礎的なことを徹底的に仕込まれました。岡本先生は実験を重視なされ、時には、へまをして怒鳴られたこともありましたが、先生は、先生の援助がなければ、院生もない七名の学部生で『他の何処の研究

## 科学技術セミナー

# 新しいガラス

前..大阪工業技術試験所 主任研究官



江口 清久



光通信用ガラスファイバー、核融合用レーザーガラスなど新しいガラスがぞくぞくと開発されるにつれて、産業界から板ガラスと、びんなどの従来のガラスと全く異なる新しい機能を持ったガラスへの要望が高まり、産学官の協力によってニューガラスフォーラムが設立され、活用している。同フォーラムが提案した新しいガラスの課題と目標及び用途を表1に示した。このように光学、電子、熱、機械、化学、医学など、広い範囲で新しいタイプのガラスの開発が進められている。これらの総てを紹介できないので、私共の研究を中心にして、多孔質ガラスについて述べる。

多孔質ガラスとは三次元に連続した微細な孔を持ったガラスである。このガラスは通常適当な組成のホウケイ酸ガラスを溶融し、成形した後、熱処理によって、酸に可溶性の酸化ホウ素に

富んだガラス相と不溶性のシリカに富んだガラス相に分相させる。前者を酸によって溶出するとシリカガラス骨格から成る多孔質ガラスが得られる。可溶性のシリカが分配されているので、酸に可溶性を溶出する時に、これらのシリカはシリカ骨格からできた孔の中にゲル状に堆積して、その隙間が二次細孔となる。

### 多孔質ガラスの特性制御

このガラスの孔の直径は4mmに限られていたが、母材ホウケイ酸ガラスの組成、処理方法を改善することによって、2~10mmの範囲でシャープな細孔径分布を持ち、細孔内表面積も1~500m<sup>2</sup>/gの範囲のものが得られるようになった。このように、細孔特性を精密に制御できるように、多孔質ガラスの使用範囲が近年飛躍的に拡大した。

シリカ-ジルコニア骨格から成る耐アルカリ性の優れた多孔質ガラスを開発し、多孔質ガラスの泣き所を改善した。多孔質ガラスの細孔内表面は無数の水酸基で覆われているので、これと各種の有機物、無機物と反応させて、新しい機能を付与することが試みられている。例えば疎水基、親水基を付けて細孔中の液体、気体の流動速度、親和性などを変換することが試みられている。

### 多孔質ガラスの用途開発

#### (1) ガス分離膜

多孔質ガラスは汎用されている有機膜に比べて高温に耐え、機械的強度が大きい。また、分離係数は小さいが、透過速度が大きいなどの特徴を持っているので、800℃、3kg/cm<sup>2</sup>の条件下で硫化水素から水素の分離、シクロヘキサン脱水素反応で多孔質ガラスを用いて水素を反応系外に除去して反応率を上げる(30%から80%)ことなどに利用されている。このように高温のガス分離、合成化学の原料ガスの濃度調整には最適である。このような用途で



表1 ニューガラスに関する研究開発課題

問題	開発の目標と用途
(1) 超低損失赤外光ファイバー	1. 超低損失フッ化物ガラス 2. 超低損失カルコゲナイドガラス } 3. 超低損失臭化物ガラス } 長路離通信 CO <sub>2</sub> レーザー加工用ファイバー
(2) 高性能光放射ガラス	1. 高出力ガラスレーザ 2. 高効率ラマン放射ガラスファイバー レーザによる成形、光化学 光増幅、波長変換用高利得ファイバー
(3) 光回路、新光学素材ガラス	1. 光導波路ガラス 2. 光制御用高機能性ガラス 3. IC用機能性素子 } 光情報処理用集積化光回路
(4) オプトエレクトロニクスおよびエレクトロニクス高機能ガラス	1. メモリ機能性ガラス薄膜 2. 高機能性透明電導ガラス薄膜 3. 超イオン伝導性ガラス 高機能性メモリ薄膜 平板ディスプレイ、太陽電池用基板 固体電池
(5) オプトエレクトロニクス用基板	1. ディスク用ガラス基板 2. ディスプレイ用ガラス基板 3. フォトマスク用ガラス基板 磁気、光、光磁気記録用高平滑度基板 液晶ディスプレイ、ELディスプレイ用基板 超LSI用フォトマスク無欠陥基板
(6) 高品質高集積化ガラス複合基板	高密度IC、LSI実装用低温焼結 ガラス-セラミックス複合基板
(7) 高強度ニューガラス	1. 高靱性ガラス 2. 超高靱性結晶化ガラス複合体 3. オキシナイトライドガラス繊維 高級建材、日用品用高破壊靱性ガラス 高温機械、ガスタービンエンジン 補強用高弾性率ガラス繊維
(8) 高機能性多孔質ガラス	1. 高温ガス精製機能ガラス 2. 淡水化機能ガラス 3. 触媒担持ガラス 4. 酵素、微生物担持ガラス 高温ガス精製 海水の淡水化 耐熱触媒担持体 固定化酵素担体
(9) 生体機能ニューガラス	1. 人工骨用ニューガラス 2. 歯科材料用ガラス 3. 軟組織用生体ガラス 生体活性、高強度ガラス 歯冠、生体活性歯根 軟組織
(10) ニューガラス製造法	1. 気相法 2. ゴルゲル法 3. 超急冷法 } 新しい組成の京機能ガラス

はゲル状シリカの堆積のないガラスが適している。  
また、多孔質ガラスの細孔径の下限は2mm程度であるので、テトラエトキシシランの熱分解反応を利用して細孔

の入口径を小さくして、細孔構造を非対称化すると、ヘリウム、水素の分離係数が3から6に倍増する。この事実

はクヌッセン拡散だけで(理想分離係数3)なく分子ふるい効果が加味されることのできる。  
**(2) 反応分離膜**

多孔質ガラス膜にPt、Ruなどの触媒を担持して、HDをH<sub>2</sub>とD<sub>2</sub>に変換する反応と、H<sub>2</sub>とD<sub>2</sub>の分離を膜内で一挙に行うことを試み、HDの変換率85%、D<sub>2</sub>のH<sub>2</sub>に対する分離効率78%が得られた。  
**(3) 液体の分離膜**  
このガラスは液体中の物質分離にも用いられる。逆浸透膜として用いる時は、ゲル状シリカの堆積量の多い多孔質ガラス程脱塩率が高く、適している。限外濾過膜(細孔径10<sup>2</sup>~10<sup>3</sup>nm)、精密潤過膜(細孔径10<sup>2</sup>~10<sup>3</sup>nm)に利用する場合にゲル状シリカの堆積のないシリカカーゲルコニア系多孔質ガラスが適している。

変えることなしに通常のシリカゲルの五倍以上の迅速分析ができるなどの優れた特徴を持っているので最近この業界で注目されている。  
酵素担体として用いる場合、多孔質ガラスは他の担体に比べ特性が優れ、かつ長持ちするなどの特徴がある。  
**(5) イオン選択性電極**  
このガラスの細孔表面にイオン感応物質を化学結合させて、イオン感応電極として利用できる。この電極は現在使用されている高分子型液体電極より使用範囲が広く、かつ感度が高いなどの特徴を持ち、従来の感応電極の欠点を解消するものである。  
**(6) その他の用途**  
多孔質ガラスの細孔中に炭素、金属などを充填して、温度計、抵抗体として、また、核燃料再処理工場からの高レベル放射性廃棄物閉じ込めなどに利用されている。

多孔質ガラスは耐熱性、耐有機溶媒性、耐微生物性が優れているので、食品工業、医薬工業、汚水処理などへの利用が試みられている。  
**(4) クロマトグラフィー用充填剤、酵素および触媒担体**  
現在の無機充填剤の主流はシリカゲルである。しかし、この材料はアルカリ域で使用できない、機械的強度が低く、高圧でカラムに充填する際に破砕する恐れがあるなどの問題点がある。そこで、多孔質ガラスの細孔表面を用途に応じて化学修飾を施し、親和性を適当に制御して充填剤として使用すると、従来のシリカゲルの問題点を完全に解消した耐アルカリ性及び強度が優れ、細孔が特に均一な充填剤で、常に安定な性能が保持される。また、この充填剤は細孔直径6mm~10mmの広い範囲で自由に選ぶことができる。細孔径の大きな多孔質ガラスを用いると、同じクロマト条件下で溶出パターンを

このガラス中に高い屈折率を与えるイオンを導入して濃度分布を作り(分子スタックフィンク法)、屈折率分布型のレンズとして利用することも出来る。多孔質ガラスを焼成して、光通信ファイバーとして利用した例もある。また、多孔質ガラスは各種物質の微細化による物性の変化を究明するために、よく利用される。  
紙面の都合で、新しいガラスの例として多孔質ガラスを紹介したが、このガラス一つを取り上げても、さまざまな用途が考えられ、多くの問題点が残されている。  
(30年卒・現・江口技術士事務所)



# 化学科紹介

最近の化学科の状況、特に人事関係と現在の研究室の構成及び卒業研究テーマを紹介致します。

本年3月に定年退職されました岩崎弘通先生の後任として金子泰成助教授(前・本学助手)が、岡本勇三先生の後任には谷利陸平教授(前・京都大学理学部助教授)が、それぞれ四月一日より着任されました。また、学内の制

度改革により、松田十四夫助手が四月一日より助教に昇任されました。谷利陸平先生の卒業生へのお言葉を、新任紹介欄に記載させて頂きました。現在の化学科の研究室名、スタッフ及び近年の卒業研究テーマは、別記の通りであります。



## 新任教員紹介〈会員へのひと言〉



谷利陸平  
1938年8月17日生

学講座)でも有合と書いていたので親近感があります。四月からの研究名は二字にうまく略せません。子供の時から花好きで、近所では生物を専門にしているように思われており、実際に生物指向の有機化学研究を希望しております。同窓会の皆様いろいろなお世話になるかと思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。

本年四月より天然物有機化学担当として赴任致しました。ヘテロ原子をもつ有機化合物の合成反応への応用や、酵母等を用いての光学活性化合物の合成を行なっております。若い人が有機合成の技術を修得することは、今後とも役に立つことでしょう。研究室所有の機器に有合と書いてあるのを見ると、三月まで勤務していた所(有機合成化

### 研究室の構成及び卒業研究テーマ

(1990年度版Crossroadより)

研究室名	スタッフ	1990年度卒業研究テーマ
無機化学研究室	理博 松田二郎教授 理博 小島一男助手	結晶、非結晶、錯体およびセラミックスの構造と物性
物理化学I研究室	理博 北村清教授 工博 澤村精治助手	液体・溶液、生体高分子・生体系の高圧物理化学 選択性透過膜、単分子膜および累積膜
物理化学II研究室	工博 谷口吉弘教授	圧縮液体の動的構造、蛋白質・生体膜の構造転移、超高压発生
工業物理化学研究室	工博 山本善史助教授	燃料電池、各種化学電池、固体電解質、固体イオニクス
無機材料化学研究室	工博 金子泰成助教授	粉体の成形、スパーク法による窒化物合成、リン酸カルシウム系化合物合成、 粉体のメカノケミストリー
分析化学I研究室	理博 永井外代士教授 理博 松田十四夫助教授	電気分析、分離分析、環境分析化学
分析化学II研究室	農博 高橋玲爾教授 白石晴樹助手	有機電気分析・有機ポーラログラフィー、非水電気化学
有機化学研究室	工博 中村尚武助教授	直鎖長鎖化合物、液晶、液晶関連物質の構造、物性
有機反応化学研究室	理博 林隆俊教授 工博 岡田豊助手	フェロセン誘導体の合成・構造・反応、クライゼン転位反応
天然物有機化学研究室	理博 谷利陸平教授	パン酵母利用不斉合成、ラクトンおよびラクタム環合成、有機いおう化合物の研究
生物化学研究室	農博 立木隆教授 塩出十一助手	有用酵母の遺伝育種、微生物による有用物質の生産、脱窒菌の生理化学
高分子化学研究室	農博 林 暁教授	生体高分子溶液のゾル・ゲル変化機構、ゲル物性、ゲルの応用

#### 〈略歴〉

一九六一年京都大学理学部化学科卒業。六十二年同大学大学院理学研究科修士課程修了。六十五年同博士課程退学、京都大学理学部助手。七十八年同学部助教授。理学博士。  
一九九〇年四月本学に着任。

### 同窓会通信—PART I—

#### 第六回 科学技術

#### セミナー報告

セミナー等運営委員長

竹内良夫

昨年十二月二日に、第六回科学セミナーが末川記念会館で開催されました。

ご講演の内容は、「新しいガラス」

大阪工業技術試験所

主任研究室 江口清久氏

「ケイ素化合物を用いた最近の

機能性塗料」

関西ペイント(株)第一工業塗料本部

技術部長 三代沢良明氏

で、共に新しい材料に関する話題で、大変興味深く拝聴致しました。

今年のセミナーは、十二月初旬の開催を予定しておりますので、多数の会員の方々が参加下さいませようお願ひ申し上げます。なお、セミナー終了後、講師の方々を混えて懇親会を開催しますので、併せてご参加下さいませようご案内申し上げます。





トピックス

# 諸刃の剣との闘い



(株)吉村興産  
松田圭一  
(昭和27年卒)

諸刃の剣という言葉は、皆さん良く御存知の事と思います。広辞苑によれば、諸刃(両刃)の剣一方では大層役に立つが、他方では大害を与える危険を伴うものたとえ、とあります。我々ケミカル製品を扱う者として、特に末端の製品の開発に携はる者は、日々これ諸刃の剣との闘いではないかと思われまます。

一般的に誰でもが理解される、副作用のない医薬とか、環境汚染の無い農薬とかが、このたとえに入る代表的なものと言えます。

小生の所属する会社の親会社である、吉村油化学(株)が市場に出している製品も、常にこの問題に直面しています。幾つかの例をあげますと、以前から繊維処理剤の中の帯電防止剤の分野で、フッ素撥水剤との併用に於て、撥水効果を減じないで且つ耐洗濯性のある、界面活性剤系の薬剤が求められて来ました。界面活性剤系の帯電防止剤は、親水性であるが故に帯電防止効果があ

るので、併用すれば撥水効果が減退されるのが通常であります。この要求は歴史も古く、布帛の分野では撥水性が100と迄はいかなくても90位のものが各社から出されているのが現状と思はれます、ところが最近では、カーワックスの分野で、従来のパラフィンワックス+シリコーンの系から、フッ素系撥水剤を用いたカーワックスが多く出ていることは御存知と思いますが、先頃あるところから、このフッ素系カーワックスで、確かに水は良く撥くが、帯電によってほりりが付着し易く、それが汚れの原因になるので併用出来る帯電防止剤は無いかという話が来ています。車の場合、水滴がコロコロと撥くというのが唱い文句で、これを全く低下させない帯電防止剤というのも、又諸刃の剣との闘いになり、布帛の様にキュアリングも出来ず、難しい問題といえそうです。

最近我々がもつと困っているものに、シリコーン系柔軟剤の難燃化という問題があります。繊維用柔軟剤として布帛用又は原綿用に最もソフトで滑りの良い柔軟剤として、最近シリコーン系柔軟剤が多く使用されております。これらの中で使用量の多いものに、ポリエステル繊維の原綿を羽毛と同じ風合いを持たせた詰綿用があります。用途は国内では布団、欧米輸出では枕とか縫いぐるみ人形の詰め綿用であります。これらは寝具用として欧米では早くから難燃化の要望があり、国内でも最近の長崎屋デパートの寝具売場の火災事故などにより、要求が増して来ることは必条であります。現在市販され

ているシリコーン系柔軟剤は要求される風合いがヌメリ感のあるソフトなもの、ドライタッチでソフトなものなどによって多少組合せが異なるとはいえ、アミノ変性シリコーンのエマルジョンが主流であります。これらは非常に良い風合いを与えますが、燃焼ということに関しては、逆に促進性であり、素材ポリエステルに難燃性物質を共重合

## 会員のページ



岸 要  
(昭和27年卒)

# ある会合のこと

その会合はテクノロジービジョン研究会、略称は技術サロンと言う。現在のメンバーは、(株)UBE科学分折センター、京都樹脂精工(株)、月桂冠(株)、三洋化成工業(株)、(株)島津製作所、(株)島津テクノリサーチ、星和電気(株)、第一稀元素化学工業(株)、大日本スクリーン製造(株)、内外テクニカ(株)、日本電池(株)、(株)堀場製作所、三井物産(株)管、京阪地区所在の企業の技術開発部門の部課長級以上の人々が中心である。

若しくは練込んだ難燃ポリエステルを用いても、シリコーン系柔軟剤で処理をした綿は難燃性が無くなってしまいます。これはポリオルガノシロキサンを骨核とするシリコーンの性質に依るもので、避けられないかも知れませんが、現在、シリコーン系柔軟剤の持つ独特の柔軟効果を障はずに難燃性を付与するものは、世界的にも未だ市場

に出しておりません。この問題は今迄でかなり強敵の諸刃の剣との闘いと思われまますので、同窓諸兄に何か良い智恵でもあれば教示頂きたいと本欄へ書かして頂いた次第であります。同窓諸兄もそれぞれの職場で同じような闘いをして居られると思います。御健斗を祈ると共に御教示の頂ける事を期待して筆を置きます。

事務局は一応、京都信用金庫 経営企画部、調査課内と理解しているが、規約がある訳ではなく、会社として会員登録している訳でもなく、また、会社の業務に直接関係もない、セミインフォーマルな性格の会合である。技術革新が急速に進む産業界にあって、京都経済圏の産業界はどの様に進展していくのか、また技術革新が文化的生活面などの様に関わっていくのか等、技術革新の将来予測を話題に月に一度集まっている。

この技術サロンの始まったのは丁度十年前である。

一九七九年、当時(株)地域経済研究所(現京都信用金庫 経営企画部 調査課)が、京都府の委嘱を受けて、十年後、京都経済圏の技術革新がどのように発展するかを予測調査するに当たり、京滋地区の各産業分野の企業に協力を求めた。

このプロジェクトは七九年六月から約一年終了したが、その時各企業から参加協力したメンバーが折角お互いに親しくなったのに、このままで終わるのは惜しいと言うことになり、八十年六月からテクノロジービジョン研究会

(略称技術サロン)として発足し、途中で若干メンバーの入れ替わりはあったが、それ以来延々十年間続いている。業務に直接関係の無い会合ではあるが、種々な業種の技術者の集まりであるから、時にはお互いに智恵を借りたり貸したり、仕事の面での助け合いもされている様である。

このメンバー、我が化学科の同窓が結構多いのである。

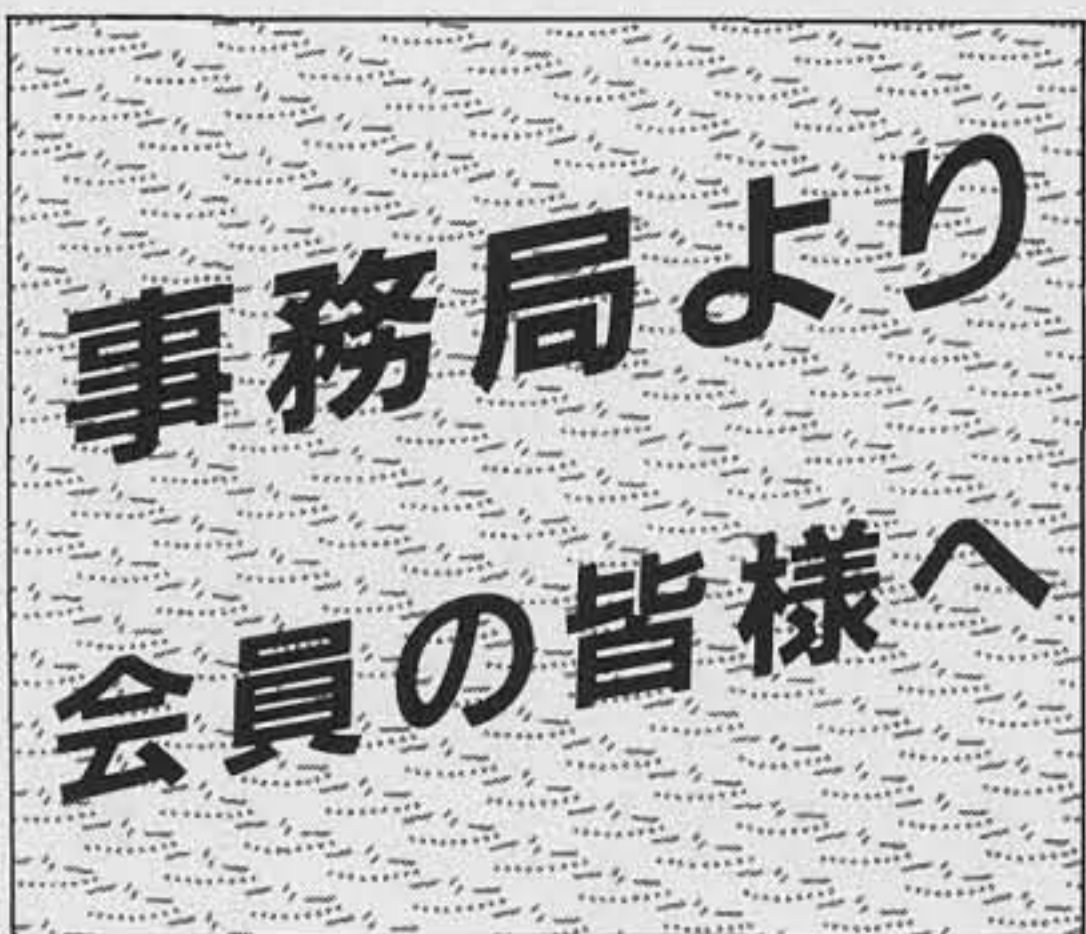
第一稀元素化学工業 浅見藤吾氏(二七年卒) 星和電気 荒木武彦氏(四三年卒) それに私、メンバー総員十七名の内三名が同窓である。以前、堀場製作所 伊藤省二氏(四三年卒)もメンバーであった。これらの諸氏には、毎月の会合を通じて親しくさせて戴いているだけでなく、仕事の面でも何かとお智恵を借りたりお世話になつて居る。勿論、化学科同窓会総会の全国校友大会の参加勧誘の大事な顧客でもある。

平素、同窓会の活動の今一つ盛り上がり欠ける現状を見るにつけ、この技術サロンの交友を想い、同窓会の活動にも取り入れる余地は無いものかと考えている次第である。









年会費等の

納入について

のお願い

一、平成二年度の年会費の納入への協力をお願いします

平成二年度年会費(平成三年三月三十一日迄)二千元を納入下さいますようお願い申し上げます。

年会費は、会運営の柱です。全会員の皆様が完納下さいますようお願い申し上げます。

なお、過年度分の会費納入、未納に関係なく、平成二年度分を納入下さいますようお願い申し上げます。

送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。なお、領収証は、郵便局の発行する受領証をもって代えさせていただきます。(注・平成二年三月卒の一部の会員は、平成二年度分の会費を納入済です。)

二、会員名簿(第二号)の「訂正・追加版」の発行と販売のお知らせ

昨年八月下旬に、昭和六十一年に作成しました「化学科同窓会会員名簿(第二号)」の「訂正・追加版」を発行致しました。本版には、第二号中の氏名、現住所、勤務先及びTEL等の訂正、さらに昭和六十二、六十三年及び平成元年三月卒業生分の名簿が追加記載されています。

名簿(訂正・追加版)代は、一冊千二百円です。多数の方々が購入下さいますようお願い申し上げます。送金には、同封の振替用紙をご利用下さい。(郵送希望の方は、別途三百円を送金下さい。)

三、寄付金募金についてのお願い

会運営を円滑に行うために、運営資金の一部として、寄付金を募っております。寄付金は、一口二千元として何口でも承っております。ご送金の際は、会費納入振替用紙をご利用下さい。

本会の財政見通しは苦しい状態にありますので是非、皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

四、事務局への連絡について

会員の住所変更、会費納入、寄付等についてのお問い合わせは、ハガキまたは電話でご連絡下さい。

事務局の電話は、  
(TEL)〇七五―四六五―一一一  
(FAX)〇七五―四六五―八二七

平成元年(1989年)度事業報告

I. 諸事業

- 1) 1989・7 全会員への通信(1回目)(総会及び理工校友大会の案内、年会費の請求、名簿の訂正・追加版の発行等)
- 2) 1989・9 名簿(第2号、昭和61年版)の訂正・追加版の発行
- 3) 1989・9・10 第3回総会開催(講演会及び懇親会は理工学部創設50周年校友大会に合流)(於:都ホテル)
- 4) 1989・11・20 同窓会ニュース(No.7)の発行
- 5) 1989・11 全会員への通信(2回目)(第6回科学技術セミナーの案内、年会費の請求等)
- 6) 1989・12・3 第6回科学技術セミナー(於:末川記念会館)
- 7) 1990・3・25 平成2年3月卒業生を対象とする年会費の請求及び名簿の販売
- 8) 1990・3・31 定年退職教員への記念品贈呈

II. 諸会議

- 1) 総会
  - 1989・9・10 第3回 都ホテル
- 2) 幹事会
  - 1989・7・23 第1回 末川記念会館
  - 1989・12・3 第2回 末川記念会館
  - 1990・2・3 第3回 れすとらん「井筒」
- 3) 事務局会
  - 1989・5・7 理工校友大会実行委員会との合同委員会 末川記念会館
  - 1989・7・23 第1回 末川記念会館
  - 1989・10・26 第2回(新旧合同) 末川記念会館
  - 1989・12・3 第3回 末川記念会館
- 4) 諸会議
  - 1989・6・17 役員選考委員会(第1回) バストラル
  - 1989・7・17 役員選考委員会(第2回) 末川記念会館
  - 1989・10・8 セミナー等運営委員会 末川記念会館
  - 1989・10・26 同窓会ニュース編集委員会 末川記念会館

平成2年(1990年)度事業計画

I. 諸事業

- |   | 予定年月      |
|---|-----------|
| 1) 企業ガイドブック(同窓会ニュース・学生版)の発行             | 1990・5・31 |
| 2) 在校生への通信(1回目)(企業ガイドブックの配布及び同窓会の案内)    | 1990・6    |
| 3) 平成2年3月卒業生名簿作成                        | 1990・7    |
| 4) 同窓会ニュース(No.8)の発行                     | 1990・8    |
| 5) 全会員への通信(1回目)(ニュース、新卒者名簿、年会費の請求等)     | 1990・8    |
| 6) 全会員への通信(2回目)(第7回科学技術セミナーの案内、年会費の請求等) | 1990・11   |
| 7) 在校生への通信(2回目)(ニュース、セミナーの案内等)          | 1990・11   |
| 8) 第7回科学技術セミナー(末川記念会館)                  | 1990・11   |
| 9) 定年退職の教員への記念品贈呈                       | 1991・3    |

II. 諸会議

- 1) 幹事会
  - 第1回 1990・7・15
  - 第2回 1990・10
  - 第3回 1990・11
- 2) 事務局会
  - 第1回 1990・7・15
  - 第2回 1990・11
  - 第3回 1991・2
- 3) 諸会議
  - a) 同窓会ニュース編集委員会 必要に応じて年数回
  - b) セミナー等運営委員会 "
  - c) 名簿作成委員会 "

平成元年度会計決算報告

一般事業会計		特別事業会計	
当初中算額	執行額	当初中算額	執行額
<b>&lt;収入の部&gt;</b>			
繰越金	309,629	繰越金	2,172,861
会費	3,000,000	拠出金	1,500,000
寄付金	1,000,000	名簿売上(一般)	400,000
雑収入	240,000	名簿売上(学生)	160,000
	4,549,629	名簿荷造送料	60,000
	4,616,761	雑収入	20,000
<b>&lt;支出の部&gt;</b>			
セミナー補助費	70,000	事務費	30,000
会議費	100,000	名簿出版費	892,000
印刷費	550,000	名簿荷造送料	60,000
郵送費	750,000	人件費	200,000
人件費	350,000	予備費	3,130,861
事務局費	20,000		0
総会費	250,000		0
雑費	150,000		0
拠出金	1,500,000		0
予備費	809,629		0
	4,549,629		0
	4,107,776		0
	残高		残高
	508,985		2,598,393

平成2年度会計予算

一般事業会計		特別事業会計	
<収入の部>	円	<収入の部>	円
繰越金	508,985	繰越金	2,598,393
会費	1,400,000	拠出金	300,000
寄付金	500,000	名簿売上(一般)	200,000
雑収入	400,000	名簿売上(学生)	100,000
	2,808,985	名簿荷造送料	50,000
		雑収入	10,000
			3,258,393
<b>&lt;支出の部&gt;</b>			
セミナー補助費	80,000	事務局費	30,000
会議費	100,000	名簿出版費	0
印刷費	550,000	名簿荷造送料	50,000
郵送費	750,000	人件費	200,000
人件費	400,000	予備費	2,978,393
事務局費	25,000		0
総会費	0		0
雑費	150,000		0
拠出金	300,000		0
予備費	453,985		0
	2,808,985		0